

発行所

石岡市役所

石岡市大字石岡408番地

電話(代表)(3)1111番

郵便番号 315

発行人 大和田 健三郎

編集 総務部



1970年

2月号

第179号

毎月1回 15日発行

昭和45年2月15日発行

昭和44年6月9日

第3種郵便物認可

(定価1部5円)



晴れて大人の仲間入り

成人式472名が出席

ことし石岡市では、八百二十六名(うち男子三百五十八名、女子四百六十八名)の方々が大人の仲間入りをしました。

これら大人になったことを自覚し、自ら生きぬこうとする若い方たちを祝い励ました。市では、一月十五日に市民会館ホールで成人式を行いました。

成人式には、新成人者四百七十二名が出席、会場は希望に満ちた若い方たちでいっぱいでした。

なお、会場を埋めたこれら

はたちの発言



秋山 定博

ことしやっと、大人の仲間入りをしましたが、僕は期待と不安でいっぱいです。

現在、僕はあるサークルに参加しています。

このサークルには、おおよそ一年になりますが、まだどういふものかわかりません。

しかし、人の性格は十人十種といいますが、本当に考えたの違った興味ある人間の集まりであると感じました。

この一年近くをふり返って

若い方たちは、市長をはじめ来賓の方々から祝いと激励のことばを受け、これにこたえて成人者を代表し秋山定博君(市内香丸町)と永山泰子さん(市内香丸町)が「自分の責任において、一步一步確実に人生の道を歩み、立派な社会人として、世の中のためにお役に立ちたい」とお礼のことばをのべました。このあと、平本きよ子さん(東大橋六軒)の働きながら学ぶことのつらさ、その反面、喜びも大きいという生活体験の発表があり式を終りました。

みますと、僕はいったい何をしたいのか、また、何を果たしたのかと自分に問いかけてみようと、全くわからない。

ただ、いままでが夢中で、何かを得ようと思わなかったことは事実です。ときどきは後悔もしました。しかし、人間的には成長したような気がしました。これは僕の思い上がりかもしれない。

これからは同じ世代の若者を多く知ると、また、あるいは世の中のしくみなどに反発を感じながらも、それら乗り越えて自分たちのものにして、もっとより多くのいろいろな事をやっていきたいと思っています。それが若者の特権であると信じています。

喫煙行為が圧倒的に多い

青少年センターでの補導状況

市では、青少年の健全育成を目的に、昭和四十四年の一月から青少年センターを発足させ、関係各団体や民間の方々の協力によって、地道な活動を続けています。

この青少年センターでは、毎週二回程度市内の盛り場などを巡回して、街頭補導を実施していますが、このほど、これまでの補導状況を別表の

とおりまとめてみました。これによると、年令別では十七才から十八才にかけての青少年が全体の五八パーセントを占めています。このように青少年センターでは、不良化への一歩手前にある青少年たちを適切に補導していますので、皆さんのご家庭でもお子さんとよく話し合い、理解し合って明るい家庭を築いていただきたいものです。

街頭補導状況 (年令別、行為別)

44.1.1 ~ 44.12.31

行為別 年令別	凶器所持	たかり	家出	学業	飲酒	喫煙	不良交遊	盛ら場徘徊	不健全娯楽	その他	計
14才未満			1			2		2	1	2	8
14才						2			1	1	4
15才			3		1	7		2	8	1	22
16才	2			1		25	1	2	11	3	45
17才		1	1	1	1	46	1	11	21	6	89
18才		1		3	2	63	1	2	4	2	78
19才		2		1	1	29	1			6	40
計	2	4	1	9	5	174	4	19	46	21	286

※補導場所は、パチンコ店 86名、喫茶店 63名、路上 その他 55名、その他店内 45名、公園・空地 23名、食堂 14名の順となっています。

しました。また、こんどの機構改革によって退団した旧団員二百九十六名に対して、市長から長年の労をねぎらい感謝状が贈られました。

式終了後は、市民の皆さんに火災予防に対する認識をあらたにしてもらおうと、市内を二手に別かれてパレードを行ないました。

障害者児相談員と
家庭奉仕員さん
ご苦労さん

市内には目・耳・手足などに障害のある身体の不自由な方々が、現在三百七十五名もいます。

これら障害者の方たちは、日常生活のうえで一般の方たちにはなんでもないようなことでも、大きな悩みとなり、重荷となっていることが多いようです。このような障害者の方たちの相談にのったりお世話したりする方々が果ては、市から委嘱されて、当市では、次の方々が活動しています。

身体障害者相談員(敬称略)
桜井 善作(貝地)
仲田 豊治(若松)
重症心身障害児家庭奉仕員
佐藤 静子(金丸町)
精神薄弱者相談員
小池富士子(小川道新池台住宅)



(友だちの応援でハッスル)

子ども会対抗の
バトミントン大会

市の教育委員会と体育協会の共催による、子ども会対抗のバトミントン大会が、さる二月一日の日曜日に石岡中学校体育館で行なわれました。この大会は、市内の子ども会を対象に、子どもたちの健康増進と会員同志の親睦和らため、昭和四十三年に第一回目の大会が行なわれ、毎年開かれることになっていました。昨年は都合で中止になりましたので、ことしは第二回大会となります。

この日、市内の子ども会の中から五十五チームが参加、会場はおよそ二百名の子どもたちでいっぱい、試合は午前十時から始まり、声援入り乱れるなかで熱戦が展開されましたが、結局次のような成績になりました。

小学生の部 (三十八チーム)
男子の部
優勝 後久保子ども会(三村)
二位 水内子ども会(三村)
女子の部
優勝 元真地子ども会
二位 あさひ子ども会(幸町)

機構改革後初の出初め式

退団者に感謝状

一月十日の午前十時から機構改革後初の消防出初め式が石岡中学校々庭で行なわれました。

この日、新しく選ばれた消防団員二百十名が参加、市長

住民税の申告は忘れずに

申告は三月十六日まで

ことしも、市県民税の申告時期になりました。

税金は皆さんの正しい申告によって、正しい課税が行なわれます。

もしも、皆さんが申告をしなかったり、不正な申告をしますと、いろいろの控除、たとえば扶養控除、生命保険料控除、社会保険料控除などが認められなくなり、高い税金

を納めることになり、あなた自身大きな損をすることになります。

市では、ことしも皆さんの

部落にお伺いして申告指導と取りまとめをすることになりましたので、期限までに忘れずに正しい申告をしましょう

申告しなければなら
ない方

- 1) 昭和四十四年中に、営業農業、配当、不動産(地代家賃)譲渡など各種の所得(利子所得は除く)のあった場合
- 2) 給与所得者で次のような場合

▽ 給与所得のほかに、地代、家賃、配当、原稿料などの給与以外の所得があった場合

▽ 給与所得者の方でも事業主が市へ「給与支払報告書」を提出しないとき(提出されているかいないかは、事業主が市役所の税務担当者におたずねください)

▽ 雑損控除及び医療費控除を受けようとするときなお、所得税の確定申告をする方は、申告する必要があります。

昭和四十四年度の赤い羽根共同募金と歳末助け合い募金はいまだき、共同募金については百三十五万七千円、また、歳末助け合い募金は六十一万九千円とそれぞれ当初の目標額(共同募金百十七万二千円、歳末助け合い募金四十万円)に配分されました。

「青年の主張」全国大会に出場して

小松崎 京子

市内井関の小松崎京子さん(二十一才)は、一月十五日の成人の日に行なわれたNHK主催の青年の主張全国コンクール大会に関東甲信越代表として出場「こんな仕事に一生を捧げたい」と農業に生きる喜びを堂々と発表、会場を埋めた聴衆に大きな感動を与えました。

小松崎さんは専業農家の長女として生まれたため、土浦一高を卒業してから農業に生きがい求め、最初はつらかったが、今では農業が大好きだと目を輝かせて語る明るい娘さんです。



写真は牛の手入れに余念ない
小松崎さん

若者の熱気でムンムン。皇太子ご夫妻のご入場でいよいよ開始、舞台裏の我々出場者十名、いやがうえにも奮起せざるを得ない。

そして無事終了、九ちゃんの歌がなんとさわやかに感じることか。

コンクール終了後は両殿下との懇談会、何にも優るすばらしい経験であった。翌日の関連ある放送のビデオ取りで全部の日程を終了。宿舎に待っていたのは、こ

ちそうの慰労会にもまさる語らいの場である。

いよいよ我々青年の特技を發揮、コーラとせんべいに舌鼓ながら一晩語り明かした。

五分間の主張にはみられぬ人生観や自国自慢に花が咲いた。そして、私はまた九人の新しい友を得たのだ。

目標額をはるかに突破

共同募金と歳末助け合い募金

昭和四十四年度の赤い羽根共同募金と歳末助け合い募金はいまだき、共同募金については百三十五万七千円、また、歳末助け合い募金は六十一万九千円とそれぞれ当初の目標額(共同募金百十七万二千円、歳末助け合い募金四十万円)に配分されました。

をはるかに突破、善意がいは、皆さんの暖かいご協力をいただき、共同募金については百三十五万七千円、また、歳末助け合い募金は六十一万九千円とそれぞれ当初の目標額(共同募金百十七万二千円、歳末助け合い募金四十万円)に配分されました。

歳末助け合い募金配分表

配分先	件数	金額
石岡地区要保護世帯	44	117,500
高浜地区要保護世帯	14	38,500
三村地区要保護世帯	7	19,000
関川地区要保護世帯	8	19,500
児童福祉施設入所者	35	52,500
老人ホーム救護施設入所	18	18,000
入院者一般、精神、結核者	46	55,200
肢体不自由児(在宅)	37	37,000
授産施設利用者	26	76,900
母子寮、児童入寮者	15	10,000
ねたつきり老人世帯	72	72,000
交通事故遺児	45	45,000
歳末積立金		58,352
合 計	367	619,452

わずかに二週間の出来事の発表であるが、私のありのままの姿であり、偽りのない主張であるということだけは胸を張っている。

今、私がしなければならぬ事は、主張に終わらず実践することであると己に命じている。

